

特別講演は、『すでに起こった未来、病院はどう変わるべきか』-ICTを活用し「治し支える医療」への転換を本格化-という演題で祐愛会織田病院理事長の織田正道先生にご講演を賜りました。

ポスター発表、シンポジウムは今回断念いたしました。一般演題では、医療安全、看護業務、経営改善、チーム医療、患者支援、ICTなど幅広い分野から26演題の発表をいただきました。多くのご登録をいただきありがとうございました。

Web開催となった本学術集会でしたが、数多くの職種を含む105名の方にご参加いただきました。ご参加いただきました皆様、関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

第21回福井県支部学術集会

学術集会会長：市立敦賀病院脳神経外科部長 細田哲也

2022年2月26日(土)、第21回福井県支部学術集会を開催し、Webにてライブ配信いたしました。

コロナ禍により、これまで当たり前に行われてきた医療が制限される中、患者・医療者がともに医療に対して前向きになりにくい状況が続いています。本学術集会も新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、一時開催も危ぶまれましたが、「元気がでる医療」をテーマに、医療介護関係者70名の方々にご参会いただき、看護師、MSW、リハビリなど多様な立場から8題の演題をご発表いただきました。また、特別講演では、つくし野病院 名誉院長の片山寛次先生より「病院を元気にするチーム医療」についてご講演いただき、本学術集会の目的である「医療福祉現場における課題や取り組みを共有し、医療を通じて患者と医療者がより元気になる一助となること」を達成することができたと感じております。

最後に、本学術集会開催にあたりご協力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

第20回福岡支部学術集会

学術集会会長：社会医療法人製鉄記念八幡病院
病院長 古賀徳之

昨年はコロナ禍により延期し、2022年2月26日(土)に完全Web形式で開催いたしました。

これまであらゆる医療機関で感染予防対策、PCR検査、救急外来や病棟運営、重点病院としての責務、ワクチン接種への対応など多くの課題や困難な局面に対して迅速な対応を余儀なくされました。このような状

況を鑑みてテーマは「私たちのCOVID-19対策」とし、特別講演やシンポジウムをライブ配信で、一般演題をオンデマンド配信で実施いたしました。

特別講演では、福岡大学病院救命救急センター准教授 喜多村 泰輔先生に「感染症拡大時の災害、かゆいところに手が届く準備～経口補水とトイレ～」と題し、ご講演をいただきました。また、シンポジウムでは「北九州市の新型コロナ感染症対策」というテーマで5名のシンポジストをお招きし、それぞれの施設・立場における地域に即した取り組みについて発表していただきました。

また、今回新たに「学術集会会長賞」を設け、41題の登録があった一般演題から優秀演題5題に学術集会会長賞の贈呈を行いました。

初めてのWeb開催となりましたが、約110名のご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。参加者の皆様、協賛各社・団体、ご協力いただいた全ての皆様に深く感謝申し上げます。

第22回大分支部学術集会

学術集会会長：国家公務員共済組合連合会新別府病院
病院長 泊 一秀

第22回大分支部学術集会は、デルタ株による夏の第五波ののち年末にかけて鎮静化していましたのでコロナ後となるのではないかとという淡い期待をもって、「コロナ後の働き方改革へ向けて」というテーマでの開催を目論みましたが、年明けオミクロン株による第六波の急速な蔓延のためリモートでの開催を余儀なくされました。

この2年あまり、これまで経験のないパンデミックの中で多くの医療機関は大変な苦労や経験を積んできました。この貴重な体験や経験を組織の垣根を越えて共有することは、対コロナ対策のみならず今後発生が懸念される新興感染症対策、働き方への対応に大いに参考になるのではないかと考え、特別講演は全国保健所長会会長であり大分県東部保健所所長の内田勝彦先生から「保健所での新型コロナウイルス感染症への対応と課題」というテーマでご講演いただき、シンポジウムは、新型コロナウイルス感染症患者を受け入れて治療にあたった医療機関から、医師、看護部長、コロナ病棟の病棟師長、感染管理師長の立場から「コロナ禍でいかに働いたか」というテーマでそれぞれの立場からの経験、対応策など発表していただき意見交換ができました。

Zoomを用いたリモートでの開催でしたが、40施設